ヨコトリーツ!

横浜トリエンナーレサポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー　Yoko-Treats!

VOL.3
FEB.2014

『ヨコトリーツ!（Yoko-Treats!）』は、「横浜トリエンナーレ」を応援し一緒に盛り上げる活動を行うサポーター"Hama-Treats!"による手作りのフリーペーパーです。「トリーツ／Treats」には、「思わぬ喜び、とてもいいもの」という意味があります。横浜のいいもの、楽しいものをお伝えしたい! ということで名付けました。ハロウィンの決まり文句 "Trick or Treat!"（「トリック オア トリート!」=お菓子をくれなきゃイタズラするぞ!）から連想して、みんながワクワクするような情報交換の場を目指しています。

ヨコハマトリエンナーレ2014「華氏451の芸術：世界の中心には忘却の海がある」
会期: 2014 年8月1日（金）～11月3日（月・祝）｜会場: 横浜美術館、新港ピア（新港ふ頭展示施設）｜アーティスティック・ディレクター: 森村泰昌
横浜トリエンナーレ公式WEBサイト　http://www.yokohamatriennale.jp/

ひらがなで語るヨコトリ2014

何事においてもそうだが、次の世代への継承を視野に入れた活動、これはとても大切である。ヨコトリ2014も、未来を担うこどもたちに向けて発信する姿勢はぜひとも示したい。

その試みのひとつとして、「こども用カタログ」というものを作ろうと模索している。しっかりした大人用カタログに加え、とかく難解と思われがちな現代美術の世界を、こどもにもわかる言葉で語ってみる。たとえば「華氏451の芸術：世界の中心には忘却の海がある」というタイトルは、大人でも解釈がすぐには難しいかもしれないが、これを「たいせつなわすれものをしていませんか」と、ひらがなだけで意訳してみる。すると、こどものみならず、多くの来場者がリアルに展示作品を味わえる、そういう手がかりとなりはしないか。

わかりやすくするためにクオリティを落とすのではない。アーティスティック・ディレクター自ら（モリムラ）が、「ここがいいんだ、ここを見て」とナマな本音で語りかける。芸術論や美術史の文献を援用する前に、まずはナマの声。ナマ声ならきっとこどもたちにも通じると信じたい。

むろんこどもに向けて発信する内容はこれにかぎらない。横浜美術館の教育プログラムチームやヨコトリサポーターの皆さんにも参加していただき、鑑賞、授業、ワークショップなど様々なプログラムによって、こどもたちを巻き込めたらと思う。

詳しくは、3月26日のトリエンナーレ学校での私の3回目のレクチャーでお話します。ヨコトリの世代を越えた広がりを目指し、みんなで話しあいませんか。

©Morimura Yasumasa + ROJIAN

Morimura Yasumasa
森村泰昌

【森村泰昌 プロフィール】1951年、大阪市生まれ、同市在住。京都市立芸術大学美術学部卒業、専攻科修了。1985 年、ゴッホの自画像に扮したセルフポートレイト写真を発表。以後、一貫して「自画像的作品」をテーマに、美術史上の名画や往年の映画女優、20 世紀の偉人たちなどに扮した写真や映像作品を制作している。
ヨコハマトリエンナーレ2014アーティスティック・ディレクター。

横浜トリエンナーレ サポーター Hama-Treats!'s フリーペーパー「ヨコトリーツ!」VOL.3 ●企画・編集: 横浜トリエンナーレサポーター フリペチーム（入江暢子／上田良寛／江藤真央／大澤歩／斉藤照子／深野一穂／山田崇之）●カバーアート: 伊藤綾子 ●紙面デザイン: 山田崇之 ●編集アドバイザー: 藤原ちから ●発行日2014年2月22日 ●発行元・お問合せ: 横浜トリエンナーレサポーター事務局［横浜市中区日ノ出町2-158 黄金町エリアマネジメントセンター内｜TEL: 045-325-8654］●横浜トリエンナーレ サポーター 公式サイト　http://www.yokotorisup.com

次号予告　特集: サポーターの声に耳を傾けて（仮）　4月中旬 発行予定

横浜トリエンナーレ サポーター Hama-Treats! 5チームの活動報告!

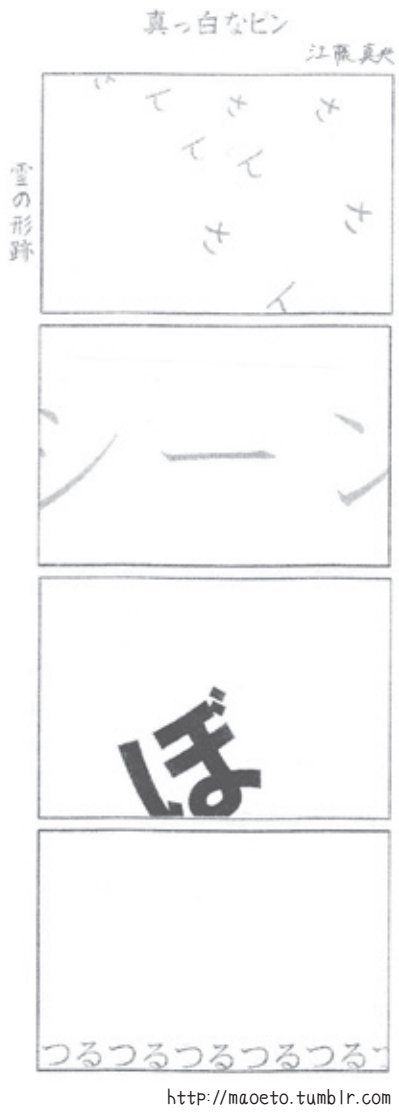
イベント・企画チーム
本展開催年を迎えてますます盛り上げていきます!
ヨコトリ開催200日前カウントダウンイベントも終わったし、やっと遅めの冬休み…? いえいえ、ここからが我々の頑張りどころ。本展開催年を迎え、やる気ボルテージもヒートアップ! 猫の手も借りながら? さらにヨコトリを盛り上げますよ! 2014年の活動にもcheck it out!!（和田）

LOGBOOKチーム
一緒にまちを航海しませんか?（コスプレ歓迎）
海賊のコスプレもしちゃうよ♥ まちを航海して、体験や記憶を交換する作品「LOGBOOK」を、ヨコトリで運用するチームです! チームはチャラくないので安心してください（笑）求む! ジャック・スパロウ!（横井）

こどもアートチーム
こども向けワークショップなど開催しています!
こどもたちがアートを身近に感じられるように、こども向けという視点でサポーター活動をしているグループです。ついに本展に向けたオリジナル企画の準備を開始! まだまだ企画段階なので、みんなでアイデアを少しずつ出しながら、準備を進めています。興味がある方はぜひご参加ください!（伊神）

フリペチーム
本展開幕に向けてさらに活発に!
8月開幕が近づくにつれてフリペ発行頻度を高める予定で、今以上に紙面充実も図るつもりです。ついては、フリペ班体制強化のために貴方の力を貸して頂けませんか。作業は記事書きの他、編集・印刷・配布・全体調整など。いずれも経験不問、一部／全部の関与も可能です。要所で懇親会も有ります。（深野）

デザインチーム
アイデアがカタチになる喜びがあります!
私たちはデザインの力でサポーター活動をわかりやすく、時には魅力を引き出すような魔法?を使ってヨコトリを盛り上げます! 200日前イベントではPOPや会場構成を行いました。ロゴデザインも進行中! 技術的な不安は無問題。皆で意見交換しながら進めています。紙面枠に収まらない楽しさあり!（新保）



http://maoeto.tumblr.com

横浜トリエンナーレ サポーターは、課外活動として5つのチームに分かれて活動中です。興味を持ったら誰でも参加できますよ!

横浜トリエンナーレ サポーター 公式ウェブページ
http://www.yokotorisup.com

皆様からの投票の結果、「横浜トリエンナーレサポーター」の愛称は
「Hama-Treats!（ハマトリーツ!）」に決定しました!

「横浜トリエンナーレサポーター」という一般的な名称ではなく、
より多くの方が参加しやすく親しみある愛称を付けよう! との思いから、
昨年のヨコトリ2014 300日前カウントダウンイベントで選抜投票（10案→3案）、
そこからのネットによる決選投票を実施し、決定しました。

サポーターの情報発信メディア『ヨコトリーツ!（Yoko-Treats!）』に呼応する
サポーターの愛称**「Hama-Treats!（ハマトリーツ!）」**。
今後はこの愛称とともにサポーター活動が大きく育つよう、
このフリーペーパー名と同じく、
ハロウィンの決まり文句"Trick or Treat!"=**「お菓子をくれなきゃ、イタズラするぞ!」**
というちょっぴり**ヤンチャな心**で**「Treats=思わぬ喜び・とってもいいもの」**を、
愛する**横浜**からさまざまな形で提供・発信できるよう活動していきます!

ヨコハマトリエンナーレ2014とともに
横浜トリエンナーレサポーター**「Hama-Treats!（ハマトリーツ!）」**を
どうぞよろしくお願いいたします!!

TOPIC!
現在デザインチームが「Hama-Treats!（ハマトリーツ!）」のロゴをデザイン中!
近々、お披露目できると思いますのでしばしお待ち下さい。ロゴが決まったらグッズ展開なども考えておりま～す。お楽しみに!

JOIN US!
一緒に「Hama-Treats!（ハマトリーツ!）」で活動しませんか?
アート好き、まちに興味がある、編集・ライターに憧れる、デザインや写真が得意、こどもと一緒に遊びたい、お祭りと聞くと血が騒ぐetc…。「ちょっと覗いてみようかな」と興味が湧いたら
info@yokotorisup.com
までぜひご連絡を!

TRIENNALE SCHOOL 2013 vol.10

トリエンナーレ学校2013
www.yokotorisup.com
参加は HP からお申込み下さい

トリエンナーレ学校は、横浜トリエンナーレを一緒に盛り上げるボランティア（= サポーター）活動の一環として 2005 年から始まりました。
月に 1 回、様々なテーマを持った講座を設定し、楽しくアートに関する知識を身につけていく学校です。

冬・春期講座
森村泰昌 × サポーター
ヨコハマトリエンナーレ 2014 開催に向けて語ろう！

3/26（水）
時間：19:00～21:00（開場 18:30）
場所：ヨコハマ創造都市センター 3F スペース
参加費：無料

Kids と「Art」

「こどもとアート」を語る座談会
こども×アートで生まれる変化

こどもがアートに関わることで生まれるものは何か。横浜トリエンナーレサポーター事務局長 山野真悟さん、ヨコトリサポーターこどもアートチーム講師 市原幹也さん、こどもアートチームリーダー 伊神花織さんに、座談会形式で語ってもらった。こどもアートチームの今後の活動のヒントが得られるだろうか。（上田）

山野真悟（やまの・しんご） 1950年福岡県生まれ。70年代より福岡を拠点に美術作家として活動。ミュージアム・シティ・プロジェクト ディレクター、横浜トリエンナーレ2005 キュレーターなどを歴任。2008年より黄金町バザール ディレクター。2009年より 黄金町エリアマネジメントセンター 事務局長。

こども × アートでどう変わる?

座談会は、伊神さんの問いから始まる。「こどもとアートが繋がることで、何が何に変わると良いのでしょうか」。こどもが変わる、アーティストが変わる、アートが変わる、社会が変わる。観点は人それぞれだろう。

市原さんは「こどもにとっても、アーティストにとっても、掛け合わせで変容して行く。それが社会にとってのインパクトになるんじゃないか」。山野さんは「アーティストがこどもたちに説明できる言葉を持つ」。彼にはこの考えに至った原体験がある。それは、昔観た、キース・ヘリングがこどもたちに自分の作品を説明しているという映像。アーティストが説明することは今では当たり前かもしれないが、作った人を介して作品に対する入り口が感じられるようになるのだ。

アートと教育

説明できる言葉を持つことはアーティストにとっての変化だが、こどもにとっての変化は何か。伊神さんは「学校教育の中で一番記憶に残っていることは何ですかと大人に質問すると、ちょっとしたハプニングや言われた小さな言葉が今の自分に繋がっているという答えが多い。こどもがアーティストと接する機会は、そういう記憶に残るものになりうるのではないか」と語る。

こどもにとっての変化となると、教育の話になるのは必然だろう。市原さんから「アートは教育に役に立つか」という問いが出された。伊神さんは「役に立つと言われているけれど、それっておこがましい気がする」という。三人の議論は「役に立たない」という方向に収斂していく。それはどういう理由だろうか。

「アート」の概念は変わり続けるもの。教育の場でアートがこどもと接触して、それでこどもが化学変化を起こすのであれば、アートの方も化学変化を起こすはず。それなのに、アートが「教材」になった瞬間に固定されてしまう。カリキュラムになって教育意図が込められても、その筋書き通り進むのだったらそれはもうアートではない。

むしろアーティストは自分のアートの概念を変えていくために生かすべき。こどもに教えるのではなく、教えられる場になる。これは市原さんの最初の発言とも繋がっていることが分かる。

伊神花織（いがみ・かおり） 横浜トリエンナーレサポーター こどもアートチームリーダー

誰でもアーティスト

こどもアートチームの悩みに、今アーティストがいない中での活動をどうするかということがある。これに対して「アーティストというのは、人間固有のものでなくて役割。誰でもアーティストになりうる」と山野さん。「アーティストという役割をこっそり作っちゃえ」という訳だ。

さらに、幼稚園児を教えていた長年の経験から、「こどももアーティストの典型」と話は発展して行く。その思いは、こども向けワークショップを主宰してきた市原さんも同じ。彼にも、何度もこどもに驚かされた経験がある。

こどもアートチームの今後の活動

今後の活動に関して、伊神さんは「こどもアートチームはいろいろな人の集まりで、動機も異なるけれど、こども×アートでの発見・驚き・面白さなどをひとつひとつ共感することで方向性が見えるだろう」。また、ヨコトリというイベントで終わるのではなく、会期終了後アーティストがいなくなっても続く活動にしたいとのこと。山野さんも事務局からの強力なサポートを約束した。

後日、こどもアートチームの話し合いがもたれた。今後の活動の方向性が決まるだけでなく、具体的な企画も現れてきている。この座談会の内容について話し合うことで共感が醸成された結果だろう。本番での展開が楽しみだ。

市原幹也（いちはら・みきや） 1978年生まれ、山口県出身。演出家。劇団「のこされ劇場≡」主宰。前・枝光本町商店街アイアンシアター芸術監督。まちの営みから着想を得て、作品の日常性を重視するプロセス志向の演劇作品が特徴。平成24年度北九州市民文化奨励賞受賞。

本展に向けて加速中!
こどもアートチーム

12月に初のワークショップ「声のたからさがし」を終えたこどもアートチーム。今後の活動とは?

初めてのワークショップでこどもアートチームが得た最大の収穫。それは、こどもたちが「本気で考え、楽しむ姿」に接することができたことでした。目を閉じて、真剣な面持ちで声のヒントに聞き入る様子。宝物の隠し場所が分かったときの目の輝き。五感を解放して、まるで冒険物語の主人公になったように、学校では体験できない「非日常」な体験を楽しんでいたその姿に「こども×アート」ワークショップの可能性を感じました。運営面やこどもとの関わり方など、良かった点・反省点を洗い出し、ヨコハマトリエンナーレ2014本展に向けて本格始動します。

只今準備中なのは、こどもアートチームのオリジナル企画。こどもとアーティストをつなぐお手紙企画や、親子で記憶を共有するアルバム作りワークショップなど、様々なアイデアが出ています。会場に来てくれたこどもたちに、お気に入りの作品を見つけてほしい。そして、アーティストを身近に感じたり、親子で新しい発見ができたりする場を作りたい。そんな願いを込めて、ワークショップを作っていきます。

また、横浜美術館主催のワークショップにもサポートとして参加予定。こどもアートチームのメンバーは大半が社会人ですが、「今年の夏休みはヨコトリとこどもたちに捧げる!」とばかりに、盛り上がっています。

今後のこどもアートチームの活動に、乞うご期待。今年の夏は、ぜひお子さんといっしょにヨコハマトリエンナーレ2014へ!　（こどもアートチーム 内木場絵理）

「こどもアートチーム」では一緒に活動を盛り上げてくださる仲間を募集中! こどもが好きな方、こどもと一緒になって面白い体験がしたい方、私たちとワークショップを作ってみませんか? お気軽にinfo@yokotorisup.comまでご連絡ください。

こどもとアートが接触することで、こどもに、そしてアートに、どんな反応が起こるのだろう? こどもとアートの架け橋を模索して、昨年末には独自のワークショップも実施し、あと半年に迫るヨコトリに向けて明確な舵を切りつつある横浜トリエンナーレサポーター こどもアートチーム。その活動の様子と、活動の背景にある想いを追ってみました。

ワークショップを通じて
こどもたちとのふれあい方を探る

こどもアートチームワークショップ「声のたからさがし」レポート

昨年 12 月 15 日横浜市青少年交流センター（ふりーふらっと野毛山）で、ワークショップ「声のたからさがし」が行われました。手元のスピーカーから音声で示されるヒントに従い施設内に隠された「たから」の手がかりを集め、全て揃うと「たから」が何か分かり、「たから」を貰えるという仕掛けです。

最初は気もそぞろだったこどもたちですが、互いに協力して探検を進めたり、報告会で手がかりを報告したりする様は大人の想像以上だったかもしれません。でも、いったん遊び始めてしまうと大騒ぎ。そんな時、大人がすべてを仕切ってしまうのではなく、こどもたちに対して質問を投げかけるなどして少し流れを変えてあげると、集中力を取り戻した様子でした。ワークショップの進行は、こどもの自由な感性を尊重しつつ、大人が助け舟を出してあげることが大切なようです。

このワークショップを通じて、本展でのこどもアート企画開催に向けての課題も見えてきました。こどもたちが楽しみつつ、心に何かを刻むために、一層の検討が必要とされているようです。（入江）

サポーター活動トピックス

2013 12/08

ベラスケス×レンブラント 森村泰昌 個展を見に行こう!
～アーティスト森村泰昌が知りたい～

ヨコハマトリエンナーレ 2014 アーティスティック・ディレクター森村泰昌氏の個展が、銀座と品川で同時期に開催されていて、両方を巡る。

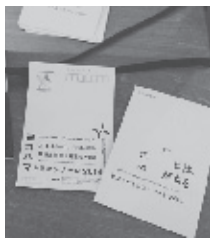
森村氏のスタイルは、名画の登場人物に扮して名画を再現するもの。銀座・資生堂ギャラリーの展示は、ベラスケスの名画「ラス・メニーナス」をテーマにした連作である。品川・原美術館の展覧会は「レンブラントの部屋、再び」。1994 年にここで開かれた森村氏の初個展の再現となる。

各展覧会では学芸員さんの解説があり、たまたま森村氏と遭遇したり、最後の感想交換会では感想を四字熟語で表現するというお題で盛り上がったり、充実した一日となった。（上田）

2014 01/13

「ヨコハマトリエンナーレ2014」開催まであと200日! カウントダウンイベント みらいの自分に『忘却の手紙』を送ろう!

「ヨコハマトリエンナーレ 2014」は、横浜美術館などを会場に 8 月 1 日開幕予定。去る 1 月13日、「開幕まであと 200 日! カウントダウンイベント」が開催された。

スローガンは「みらいの自分に『忘却の手紙』を送ろう!」。「横浜美術館」と向かいの「MARK IS みなとみらい」に設けたチェックポイントを巡るスタンプラリー。台紙は葉書になっていて、ゴール後に「半年後の自分が忘れたくないもの」を記入して特製ポストに投函すると、開幕日に本人に届く。

用意した台紙は昼過ぎに無くなり急遽追加印刷。盛況裡に予定を終えた。（深野）